

がん患者の就労支援を

徳島大で650人、理解深める
フォーラム

質問に答える登壇者＝徳島大蔵
本キャンパスの大塚講堂



徳島県民がんフォーラム（県がん診療連携協議会など主催、徳島

大学病院がん診療連携センター、徳島新聞社共催）が9日、徳島市の徳島大蔵本キャンパスの大塚講堂であり、約650人が患者の就労支援などに理解を深めた。

徳島大学病院がん診療連携センターの武知浩和特任助教が講演。「現代は患者も医者も互いに不信感を持つ時代」と指摘し、良好な関係を築く大切さを説いた。

聖路加国際病院相談支援センターの橋本久美子アシスタントナースマネジャーは、就労

支援の仕組みを知る重要性を強調。「それによつて、生きがいや目標を持って仕事を続けられる」と呼び掛けた。

事前に募った質問に登壇者が答えるパネル討論もあり「家族はどんなサポートをすればよいか」との問いに「受診の際、一緒に医師の話を聞く」「特別扱いをせず、今まで通り接する」などと応じていた。（榎本佳純）